

# 北海道一なぜ米の生産が日本一に？

北海道旭川市立桜岡中学校 今井一也

明治時代になるまで米の生産がなかった北海道が、どのような経緯を経て生産量日本一になったのか、また稲作以外の地域では、どのような農業が行われているかについて、『中学校社会科地図 初訂版』（以下、地図帳）のp.108の地図を中心に、学習を展開する。

ここでは石狩平野の稲作に主眼をおく。北海道の日本海側は冬の積雪量が多く、稲の栽培には向かない土地であり、また石狩川流域には泥炭層が堆積しているため、水田を作ることは難しい地域であった。

石狩平野がどのようにして米どころとなり、北海道が米の生産量日本一となったか

1. 米の生産量が日本一の都道府県はどこかを発表させ、地図帳のp.135で確認する。
2. 地図帳p.108の地図から札幌市と東京を比較し、北海道の気候の特色をつかませる。

【夏が短く、冬が長い】

3. 石狩平野の付近に泥炭地があることに着目させる。【泥炭地は農業には向かない】
4. 気候条件が不利な北海道で稲を育てるためにはどうすればよいかを問いかけ、「品種改良」を導き出す。
5. 泥炭地を水田にするためにはどうすればよいかを問いかけ、「土壌改良」を導き出す。
6. 稲の品種改良、石狩平野の土壌改良について調べさせる。

【耐寒品種の開発、客土による土壌の改良について理解する】

7. 米の作付面積の資料を提示し、北海道の稲作農家の経営耕地規模が都府県に比べて大きいことを確認する。

【稲作専業農家により、大規模で生産性の高い米づくりが行われていることを理解する】



「中学校社会科地図 初訂版」p.108

8. このように、北海道が米の生産量日本一に至るまでには、技術者や農業従事者のためまぬ研究と血のにじむような努力の成果であることをつかませる。
9. また最近では「量」だけでなく「質」も大きく改善され、道内の外食産業でも「道産米」の採用が増えていることについてもふれる。
10. 地図帳のp.108の地図で稲作の北限線を確認し、稲作を行っていない地域では、どのような農業が行われているか、調べさせる（地図帳のp.109～110の十勝平野・根釧台地にどのような記号があるか）。
11. 石狩平野では稲作、十勝平野では畑作、根釧台地では酪農といった、気候や土壌に合わせた特色ある農業が行われていることを理解させる。

以上、都道府県の学習の中で北海道を取り扱う場合、農業について調べることを通して、北海道の地域的特色をつかませることができる。